

羽ばたけ! TUT2020 報告書

参加プログラム	オーストラリア研修
研修先機関名及び所在国	Monash College オーストラリア
プログラム名	Monash College English and Global Careers Program 2021 January-March
研修内容	
① 参加の目的や動機 本学 GAC に入学してから継続してきた英語学習アドバイザーの利用や国際交流クラブへの加入、オンライン英会話など、英語でコミュニケーションをとる訓練の成果を確認するとともに、コミュニケーションツールとしての実践的な英語の学習と現状の課題点の把握を目的とする。 ② 研修内容 概略 授業は Zoom を用いたバーチャルクラスルームで行われた。参加者は事前に行われた面接結果より Intermediate と Advanced の二つのクラスに分けられ、筆者は Advanced に割り当てられた。Advanced クラスにはさらに A と B の二つのクラスがあり、教材は共通であるが担当教員が異なり、毎週クラス替えがあった。各クラスの人数は 15 人程度だった。教材は Google Drive で管理され、課題は Moodle と Google Drive で管理されていた。教材はクラスの全員に共有されており、グループワークやブレインストーミングにおいて複数人が同時に書き込めるなど、有効に活用されていた。一週間を通して一貫した主題の教材が用意されており、筆者の場合、一週目は人類が引き起こす環境問題、二週目はメディアリテラシーとスマートフォン依存、三週目はサステナビリティと人脈の形成がテーマの教材を使用した。毎週月曜日から水曜日はテキストや音声、動画から要点を見つける課題や語彙の学習など、英語の演習に重点が置かれ、木曜日と金曜日はチームワークやプレゼンテーション、フォーマルなシーンでの依頼など、ビジネススキルに重点が置かれた。授業中は Zoom のブレイクアウトルームが頻繁に使用された。参加者は 2 人から 5 人のさらに小さなグループに分けられ、協力して読解、議論、課題を行ったあと、クラスルームに戻って各ブレイクアウトルームで話し合ったことを共有した。語彙の学習には Quizlet Live が用いられた。また、授業の開始時には Warmers と称した論理パズルやゲームが用意されており、授業へ関心を向けさせる工夫がされていた。 詳細 1週目：Solving Contemporary Crises 月：The Anthropocene 始めに二人組で自己紹介をした。クラスルームに戻ったあと全員に対して先ほど自己紹介をした相手を紹介した。授業の導入として、ブレイクアウトルームで人類の活動の悪影響についてブレインストーミングを行った。その後、人新世 (Anthropocene) に関する動画を視聴し、グループで動画に関	

する問題を解いた。語彙の学習をした後、人新世に関するテキストから要点のみを素早く読む練習をした。

火：The Death of the Bees

Warmers でペアになってクイズを解いた。語彙の学習ではペアで Quizlet の学習セットの単語を用いて短い物語をつくった。読解演習では記号や省略を用いて素早くメモを取る方法を学習した。その後、TED talk の動画でメモを取る実践をした。動画の書き起こしを確認し、グループで動画に関する問題を解いた。最後に、ブレインストーミングで会話での頻出表現を共有し、ネイティブスピーカーの会話を聞いてそれらがどのように使われているかを確認した。

水：実験のため欠席

木：Successful Teamwork Part 1

グループで成功するチームワークについて議論した後、Warmers のパズルでチームワークを実践した。その後、ペアでテキストを読み、メモを取った。語彙の学習をし、チームが持つべき役割について学習した。宿題として、過去にチームで活動した経験についてのプレゼンテーションを作ることが課された。

金：Successful Teamwork Part 2

前日の宿題で用意したプレゼンテーションを発表した。

2週目：International Media and Communication

月：21st Century News

一週目と同様に自己紹介を行った後、普段どのようなメディアから情報を得ているかを議論した。語彙の学習をし、学習した単語を用いて短い文を作った。その後、グループでテキストを読み、重要な箇所をハイライトした。テキストの要点と詳細をブレインストーミングし、テキストに関する問題を解いた。Kahoot でフェイクニュースを見分けるゲームをした後、グループでどれがフェイクであったかを議論した。翌日のグループディスカッションの準備として、テキストの要点を確認し、signposting language について学んだ。

火：Screen Time Part 1

前日に準備したグループディスカッションを行った。議論をしている参加者以外は議論を聞き、議論が終わった後に各発表者の主張、重要語句、signposting language についてフィードバックをした。その後、携帯電話の使用に関する動画を視聴し、それぞれのスクリーンタイムについて話し合った。語彙を学習し、それらを用いて文章を作った。スクリーンタイムに関する講義の音声を聞いた後、グループで講義の要点と使われていた signposting language を確認し、強調または繰り返された単語をメモした。さらに、主張とそれを支える詳細を関連付けた。最後に、Moodle の課題を解いた。宿題としてスマートフォンの悪影響を調べることが課された。

水：Screen Time Part 2

初めに前日の授業をもとにスマートフォンの利点と欠点について議論した。また、これから聞く講義で用いられる根拠や例について予想し、信頼できる根拠はファクトベース、サンプルサイズが大きい、客観的、第三者によって検査されている等の特徴があることを確認した。また、講義を聴く間に、主張、事実、統計、例をメモすべきであることを確認した。講義の音声を聞き、ワークシートのテンプレートに沿ってメモを取った。

木：Advertising Strategies

Warmers の後、最近見た広告について話し合った。文章を読むときの手法である SQ4R (Survey / Question / Read / Record / Recite / Review) について説明を受けた後、テキストのタイトルと見出しに注目し、取り上げられているものは一体何か、なぜそれが重要なのかという問いを立てた。ペアで問いに従ってメモを取りつつテキストを読んだ。その後、メモと記憶を頼りにテキストの主張とその詳細を話し合った。宿題として、効果的な広告についてのプレゼンテーションを他の参加者と作ることが課された。

金：A Theory of Advertising

前日の復習をした後、プレゼンテーションを行った。その後、グループに分かれて実際に広告を作った。

3週目：Professional Ingenuity and Innovation

月：Future Cities

自己紹介の後、出身地の持続可能性について話し合った。語彙の学習の後、都市開発に関するテキストを読み、その効果と影響についてブレインストーミングをした。その後、グループで Moodle の課題を解いた。宿題として、ペットボトルの廃棄についてのプレゼンテーションをグループで用意することが課された。

火：Designing future Cities

Warmers として洋楽の歌詞を聞き取るゲームをした。前日準備したプレゼンテーションを発表し、発表しているグループ以外の参加者はフィードバックをした。その後、出身地のアクセスの良さについて議論し、グループで Moodle の課題を解いた。翌日のグループディスカッションの準備として、signposting language について学んだ。

水：Early Warming Systems

日本で頻発する災害について議論した。語彙の学習の後、2004 年のスマトラ島沖地震の津波の映像を視聴し、被災地、原因、影響、早期警戒システムについてメモを取った。

木：Networking for Success

Networking に関する動画を視聴し、グループで networking とは何か話し合った。Networking は日本語でビジネスシーンにおける人脈づくりに相当する単語であることを確認した。また、networking と small talk の違いについて議論した。その後、networking の戦略と有用な表現につ

いて学んだ。翌日の networking のロールプレイの準備が宿題として課された。

金：Design Your Career

Networking のロールプレイをペアで行った。

③ 研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点

今回のプログラムを通して、自分の英語力で十分にコミュニケーションをとることができることがわかった。語学研修としては、自分の意見を表明する技術や相手の意見を聞く技術、論理的に主張をまとめる技術、さらに文書や動画から要点を探す技術を学んだ。また、授業で取り上げられたトピックである現在の環境問題やサステナビリティ、メディアリテラシーについて明確な意見を持つことができた。課題点として、語彙や文法など、基礎的な英語力に改善の余地があることがわかった。現状の英語力が把握できたこと、コミュニケーションツールとしての英語を実践できたこと、現状の問題点を確認できたことから、当初の目標を達成できたと考える。

④ 今後の目標、課題、当初設定した「帰国後に実践する行動目標」の見直し

本プログラムを終えて、語学力向上には継続的な訓練が不可欠であることを理解した。今後も学内、学外の国際交流の機会や英会話の機会を積極的に活用していきたい。また、本報告書や報告会で、今回の体験を他の技科大関係者に共有することで、本学のより一層の国際化に貢献したい。

⑤ その他感想など

授業外のプログラムとして現地の日本語を学習している学生と日本語と英語で会話する機会があったが、これは第二言語を学習している自分自身を省みる貴重な体験になった。相手が日本語の表現を思いつくことができずに考え込んでしまっているとき相手が大きなストレスを感じていることがわかったが、これは筆者が英語を話すときにもよくあるため強く共感した。このようなぎこちなさは聞き手と話し手の双方にとって大きなストレスであることがわかり、また、グローバルハウス内であまり英語が話されない一因であるように感じた。